

消防ヒヤリハットデータベース事例情報シート

【事例概要について】



1. 事故・ヒヤリハットの別	ヒヤリ
2. 体験した事例の名称	増水河川により洗掘された道路が崩壊し、消防車両が河川に転落した事例
3. 体験した事例の中心的要素	台風の接近に伴う集中豪雨により、増水した河川の付近住民に発令された避難勧告を伝達するため、ポンプ車に隊長以下4名の隊員が乗車し、午前2時頃出動した。大雨と濃霧の悪天候の中、河川沿いの道路を緊急走行中、機関員が道路の河岸側が洗掘され崩壊している箇所を発見し隊長命に車両を停車させようとしたところ、さらに前方の道路が崩壊していたため、車両を避難させようとしたが道路が全面崩壊し、車両が河川に転落したもの。 車両に乗車していた4名は、隊長の迅速・的確な判断と指示及び隊員間の連携により安全な場所へ避難し、負傷事案等は
4. 体験した事例の原因・理由	1. 増水した河川により道路が洗掘され、崩壊していることが予想できなかった。 2. 出動が午前2時頃と夜間であったことと、大雨と濃霧の悪天候で視界が悪く、現場の状況が把握できなかった。

【体験した事例の直接的な原因について】



1. 体験した事例の直接的な原因	
------------------	--

【体験した事例について】



1. 発生日時	平成 18年 9月 17日 午前 2時頃
2. 発生した当時の天候	雨
3. 発生した活動現場	屋外：山間部河川沿いの国道
4. 体験した事例の種類	回答者が、自分自身で負傷した。
5. 事故の程度（ヒヤリハットの場合、仮に負傷したときの程度）	死亡していた（させていた）だろう。
6. どのようなことが起きたのか（起きそうになったのか）	墜落・転落
7. 事例体験時の活動	風水害等の災害、出動途上 []
8. （7の活動中） どのような作業中に発生したか	その他：現場への出動途上
9. 同様の体験は、これまでにどの	初めて体験した。

程度の頻度で体験していますか。	
-----------------	--

10. 事例体験者の属性（回答者は当事者A）

○当事者A	年齢[52]歳、勤続年数[29]年、現場経験年数[29]年、階級[消防司令]、同様の活動 [1年に数度]、任務 [車長]
○当事者B	年齢[43]歳、勤続年数[19]年、現場経験年数[19]年、階級[消防司令補]、同様の活動 [1年に数度]、任務 [機関員]
○当事者C	年齢[50]歳、勤続年数[28]年、現場経験年数[13]年、階級[消防司令補]、同様の活動 [数年に1度程度]、任務 [隊員]
その他 (当事者が4人以上の場合)	当事者D 年齢 55歳 勤続36年 現場経験36年 階級 消防士長 同様の活動 数年に1度程度 任務 隊員

11. 事例発生の経過。

	誰(何)が	なにをした	その他・備考など
経過1	Bが	緊急走行中、道路の崩壊に気付いた。	
経過2	Aが	車両停止を命じ、前方の道路崩壊に気付いた。	
経過3	ABCDが	消防車両を、歩道上に移動しようと作業した。	
経過4	Cが	通信指令室へ状況報告を実施した。	
経過5	Aが	作業中、緊急避難を指示した。	
経過6	ABCDが	避難完了	
経過7		消防車両が河川に転落した。	
経過8			
経過9			
経過10			

【その事例発生時の状況について】



○事故の場合 : 事故が起きたのはどうしてだと思うか？

ヒヤリハットの場合 : ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思うか？

危険事象の対応方法を知っていた。避難・退避がうまくいった。指揮者が適切に指示した。他隊(員)との連携活動がうまくいった。たまたま、事故にならなかった。

○心理・体調について

a. あせりを感じていた

・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。	いいえ
・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。	いいえ
・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。	いいえ

b. 注意力が欠如していた

・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。	いいえ
・活動終息（鎮火等）や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。	いいえ
・体調不良や疲れにより注意力を欠いた。	いいえ

c. 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	いいえ
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	いいえ
・活動に対する経験が不足していた。	いいえ

d. 心身の不調があった

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	いいえ

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・装備・資機材の使用方法が誤っていた。	いいえ
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・必要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

○活動環境について

f. 障害物や自然環境（雨・濃煙）によって視界がさえぎられた。

・障害物（建物等）のため周囲の状況が見えなかった。	はい
・特異環境（煙、暗闇、降雨等）のため周囲の状況が見えなかった。	はい

g. 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	いいえ
・暑かった（寒かった）。	いいえ
・野次馬が多かった。	いいえ
・現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h. 足場が悪かった。

・足元が躓いたり滑りやすかった。	いいえ
・足元の強度が不足していた。	いいえ

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかった（適切な指示を与えられなかった）。

・活動指示が得られなかった。（無線が通じない等。）	いいえ
・指示内容に誤り・偏りがあった。	いいえ
・指示内容が実施困難であった。（周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。）	いいえ

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	いいえ
・隊員が不足していた。	いいえ

○その他

l. その他の理由があった。

はい：洗掘による道路の崩落まで予測できなかった。

【事故発生後の取り組みについて】



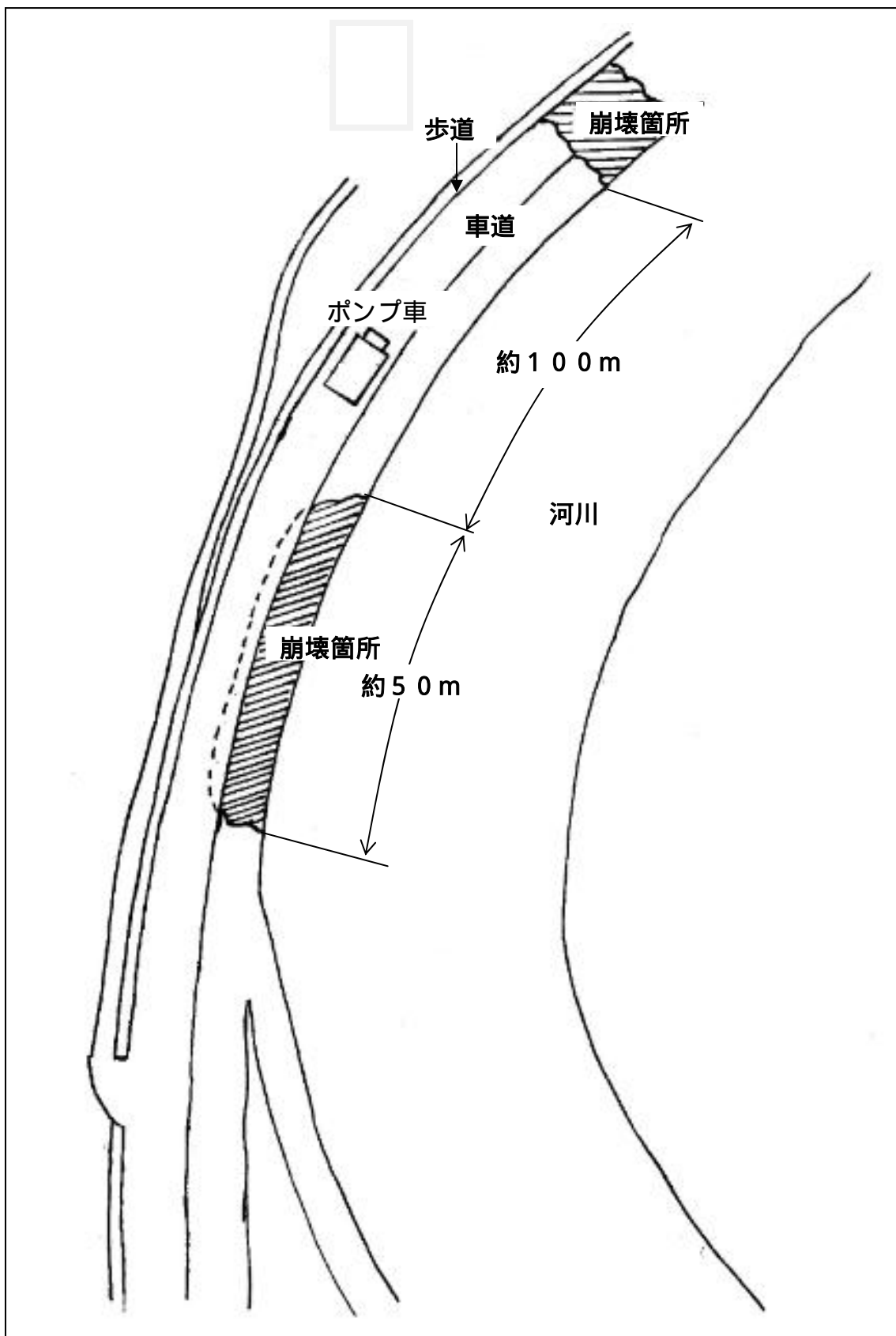
○注意力欠如、焦り等の対策について

○装備・資機材の対策について

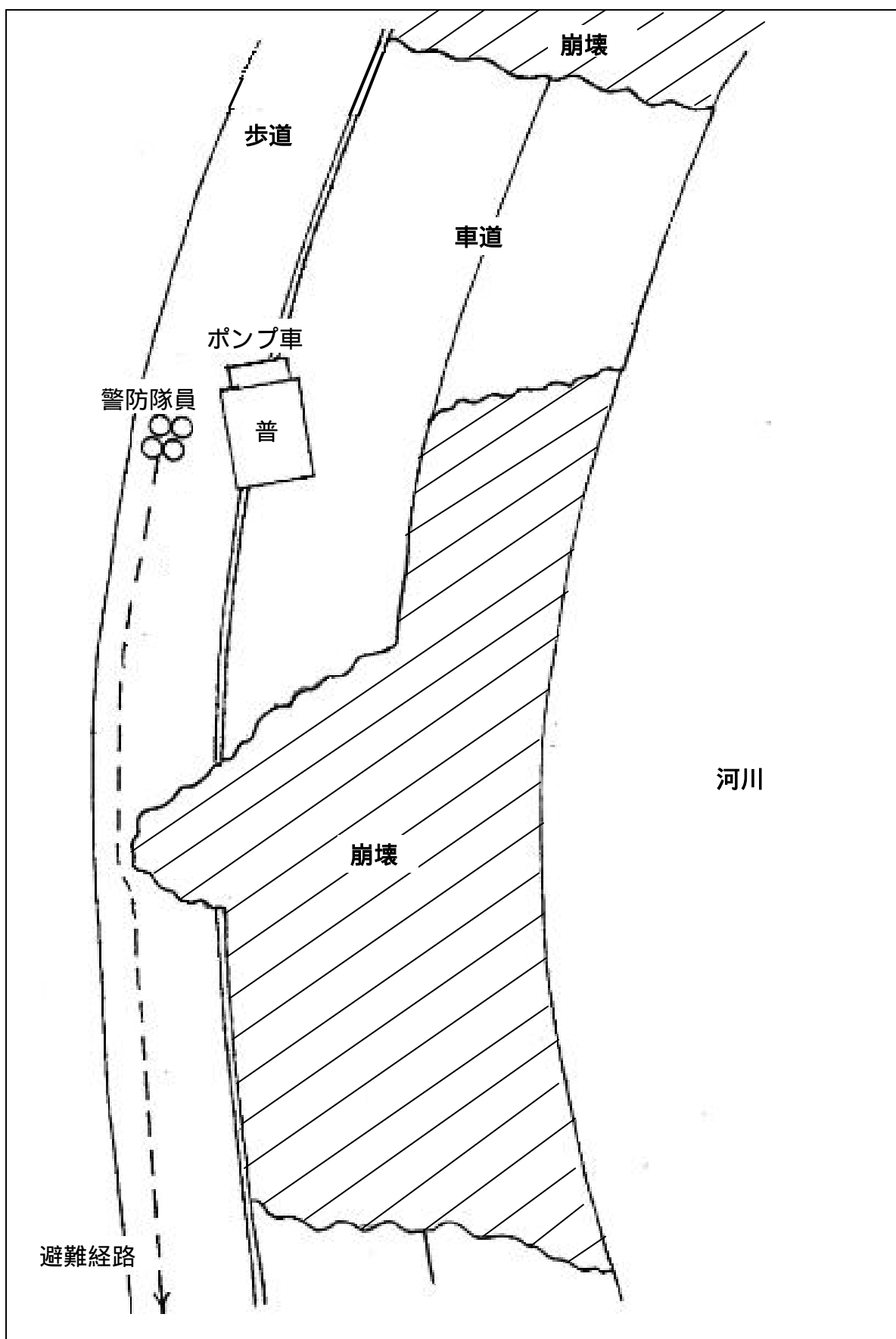
○活動環境の対策について

○指揮・情報伝達の対策について

車両停車時の道路崩壊状況



車両避難実施時の道路崩壊状況と警防隊員避難経路



道路崩壊に伴う消防車両転落現場



消防車両停止位置及び転落場所





消防車両停止位置及び転落場所←



○ヒヤリハット事例：増水河川により洗掘された道路が崩壊し、消防車両が河川に転落した事例
 (同様の体験は、初めて体験した。)

(08H0038)

・発生日時：平成18年9月17日 午前2時頃

経過	現場の状況	隊員A(車長)	隊員B(機関員)	隊員C	隊員D	備考
		車長／消防司令 ・年齢 52 歳 ・勤続 29 年 ・現場 29 年 ・同様の活動：1年に数度	機関員／消防司令補 ・年齢 43 歳 ・勤続 19 年 ・現場 19 年 ・同様の活動：1年に数度	隊員／消防司令補 ・年齢 50 歳 ・勤続 28 年 ・現場 13 年 ・同様の活動：数年に1度程度	隊員／消防士長 ・年齢 55 歳 ・勤続 36 年 ・現場 36 年 ・同様の活動：数年に1度程度	
	出動指令					風水害による出動
	山間部河川沿いの国道。出動が午前2時頃と夜間であったこと、大雨と濃霧の悪天候で視界が悪かった。	台風の接近に伴う集中豪雨により、増水した河川の付近住民に発令された避難勧告を伝達するため、午前2時頃出動。				現場の状況が把握できなかった。また、増水した河川により道路が洗掘され、崩壊していることが予想できなかった。
	増水した河川により道路が洗掘され、崩壊していた。	緊急走行中、道路の河岸側が洗掘され崩壊している箇所を発見した。				
		車両停止を命じ、前方の道路崩壊に気付いた。				
		消防車両を、歩道上に移動しようと作業した。				
		通信指令室へ状況報告を実施した。				
		作業中、緊急避難を指示した。				
		避難完了				
	消防車両が河川に転落した。					

◎ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思うか？

- 直接的な原因：
- ・危険事象の対応方法を知っていた。
 - ・避難・退避がうまくいった。
 - ・指揮者が適切に指示した。
 - ・他隊(員)との連携活動がうまくいった。
 - ・たまたま、負傷事故にならなかった。

◎ヒヤリハットが起きた背後要因

- (活動環境について)
- ・障害物(建物等)のため周囲の状況が見えなかった。
 - ・特異環境(煙、暗闇、降雨等)のため周囲の状況が見えなかった。
- (その他)
- ・洗掘による道路の崩落まで予測できなかった。